



認知意味論：多義の構造

Cognitive Semantics : The Structure of Polysemy

田 中 茂 範
(Shigenori TANAKA)

1. はじめに

ことばの意味の研究を進める上で、まず大事なことは、研究者が意味に対する自分の立場を明らかにすることである。それは直接その研究の目的とも結びつき、研究方向や研究成果の妥当性を決める際の基準となるからである。本稿では、意味を心理現象として捉えるという、国広(1981)の立場をとる。意味を心理的なものとして捉えた場合、それは次のことを意味する。すなわち、意味は私たちの頭の中にあるものであり、研究の対象も、当然、そこに向けられる。となると、意味分析の妥当性は、私たち言語使用者の常識にかなうものでなければならない。つまり、国広(1981:130)が指摘するように、「意味分析は一般の常識のレベルでおこなうものである」ということになる。服部(1973:20)も、この点に同調し「一般に、ある単語の意義素の記述は、その単語によって表される事物の科学的記述ではなくて、むしろその単語の意味の民間伝承的記述となるであろう」と述べている。こういった方向の意味研究は、“mental lexicon”(Miller 1978)、“subjective lexicon”(Fillenbaum and Rapoport 1971)、“psycholexicology”(Jorgesen 1983; Miller and Johnson-Laird 1976)という呼び名のもとに、近年、活発に進められている。これらの意味研究は、認知(cognition)の問題と切り離せないものであり、ここでは Jackendoff(1984, 1987)にならい「認知意味論」(cognitive semantics/conceptual semantics)と呼ぶ。

ことばの意味を心理現象として扱うといっても、いくつかの分析レベルに分けて研究していかなければならない。その点につき、池上(1975)は「語における意味構造」「語彙における意味構造」「文における意味構造」「テキストにおける意味構造」と4つのレベルを設け、それぞれのレベルで検討すべき点について詳細な説明を与えている。私たちが本稿で関心のあるのは、「語」および「語彙」である。池上(1975)によれば、「語」レベルは、主として単語の意味の内部構造を扱い、そこでは多義性が重要な研究課題である。それに対し、「語彙」レベルは、ある言語内での語と語の関係性を主として扱い、意味野あるいは「場」が重要な研究課題となる。私たちは、これら2つのレベルをひっくるめて“lexico- semantics”とし、「語」と「語彙」レベルの研究をそれぞれ「語内構造」(intra-lexical structure)「語間構造」(inter-lexical structure)の研究と呼ぶ。ここで

* 本研究での議論は、田中(1987a, 1987b, 1987c)の延長であり、文部省科学研究特定研究(61120005)石綿敏雄班研究プロジェクトの一環である。

2つのレベルをまとめているのは「語の意味の本質」は“intra-lexical”と“inter-lexical”構造の両面を視野に入れた時はっきりしてくる、という前提があるからである。

本研究のねらいは、lexico-semanticsレベルにおける意味分析の方法を認知意味論の枠内で論じることである。より具体的には、重要な言語現象のひとつである多義性の問題をどう処理するかがここでの主たる問題となる。品詞間の機能的特性の違いを考慮し（田中 1987b, 1987c 参照）、ここでは特に英語の動詞の意味分析に焦点を当てた議論をおこなってきたい。

2. 動詞の多義性とコア・プロトタイプ理論

多義性とは、簡単にいえば、ひとつの語に2つ以上のなんらかの関連があるとおもわれる意味が結びついている場合を指す（Lyons 1977, Ullmann 1962, 国広 1981, 池上 1975参照）。多義がどのように起こるのかという問題について、Ullmann (1962) は「適用の推移」(shifts in application), 「コンテキストにおける特殊化」(specialization in a social milieu), 「比喩」(figurative language), 「同音異義語の再解釈」(homonyms reinterpreted), 「外国語の影響」(foreign influence) の4つの主要なメカニズムをあげた。国広 (1981) は、これよりもっと詳しく、次の11項目をあげている。

(1) 心的視点の相違によるもの

例. *corner* はどこに視点を置くかで、「コーナー」「カド」「スミ」になる。

(2) 転移

例. *bamboo* は一義的には「植物」であるが、転移の意味として「棒あるいは材料として用いられた竹の幹」がある。

(3) 部分的転用

例. 「降る」の意味は「<雨, 雪, あられなどの水分の小片が><空から><落下する>」と分析されるが、<空から>の中には<頭上から><何も無いところから>という特徴が含まれ、<何も無いところから>の部分転用によって「降って湧いたような」の表現が生まれる。

(4) 推論の意味

例. *shoot* には「銃砲など、発射する」「銃弾などを当てる」「そうすることによって傷つけたり、殺したりする」がその語義としてあるが、「何かをねらって撃てばあたるのが普通である」「弾丸があたれば、普通は相手を傷つけたり、殺したりする」などの推論に基づく意味展開が働く。

(5) 比喩的転用

例. *see* は基本的には視覚動詞であるが、比喩的転用として「理解する」の意でつかわれることがある。

(6) 提喩的転用 (synecdochic transfer)

例, 「警察」で「警官」をあらわす。

(7) 換喩的転用 (metonymic transfer)

例. *dike* は元来「溝」の意であったが、空間的に近接している「堤, 土手」の方に指示的意味

が移った形で使われる。

(8) 具象化転用 (reification)

例. 「礼を言う」の「礼」は＜感謝の言葉＞であるが、これが＜感謝の意を表わす物品＞の意で使われることがある。

(9) 上下関係の意味 (hyponymic relation)

例. *man* は「人間」「男」「成人の男」の意で使われる。

(10) 特殊化転用 (specialization)

例. 法律用語で *action* といえば「訴訟」の意となる。

(11) 集合化 (collectivization)

例. *leaf* は基本的には一枚の葉を指すが、これが集合的に使われることがある。

池上 (1975) は、多義性における「恣意性」と「有契性」を論じ、前者は多義性を無制限に許容する原理として働き、後者はそれを阻止する方向に働くとのべている。多義の構造を理解するには、「有契性」(motivation) の問題を明らかにしていかなければならない。その問題をどのように扱うかが、研究者の意味論の立場を明らかにすることにもつながる。多義の問題では、意味的有契性が問題となるが、前提として原義と転義を分け、両者には何らかの連想的関係があるとする。上の国広 (1981) のリストは、ここでいう連想的関係を説明したものである。

原義と転義を区別した場合、意味論を展開する上で大切なことは、「原義」という概念に操作定義を与えることである。ひとつには、多義を構成する語義になんらかの形で共通する意味を指す「基本的意味」を原義とみなす立場が考えられる。池上 (1975) はこの立場が、言語学の意味論の立場からは支持されないとし、その理由として2点をあげている。

まず、第一に、「原義からある転義が、次いでその転義からまた別の転義が、というふうに意味の派生が進む場合、たがいに隣りどうしを較べてみた場合、それらの間にも有契的な関係があるという保証はないわけである」(池上 1975: 226)。その例として、池上は *fast* の語義展開をあげている。つまり、*fast* は、元々「固定された」の意であったが、それから「着実な」、そしてそこから「早い」という順で派生が起こった。「固定された」と「着実な」、「着実な」と「早い」の間には何らかのつながりが想定されるが、「固定された」と「早い」の間に有契性をみいだすのは困難である。このような事実を考えると、「基本的意味」を想定するという考えは、多義性の実状にあっていないことになる。「意味転用がひとたび行われると、新しい意味はもとの意味とは一応自立したものとしてそれ自体独自の意味特徴を含みうる可能性は常にあるわけであり、もとの意味とは関係のない独自の意味特徴を媒介としてさらに転用が起こりうるからである」(池上 1975: 253)。

池上 (1975) が指摘する「基本的意味」の立場のもうひとつの問題は、「意味の転用の媒体となる意味特徴はもとの意味にとって示差的 (distinctive) でない場合も極めてふつうであり、そのような考え方に立って記述を行うとすると、示差的な意味特徴と非示差的な意味特徴の区別、したがってまた「ことばについての知識」と「ものについての知識」の区別を、全く顧みないことになる」(p. 253) ということである。例えば、*father* には「父親」と「神父」の語義があるが、両者に共通する意味として「面倒をみる」をその特徴として引き出したとしよう (p. 235)。その場合、「面倒をみる」は、「父親」「神父」のどちらの意味記述においても示差的でない。「面倒をみる父親」

と「面倒をみない父親」を英語では別の語で区別して表すということをしなからである。池上（1975：254）の主張は、「われわれが心理的に感じる異なる意味の間の関連性ということには厳密な意味での言語学の枠の外にある要因も関係しうるのであって、それらを規定するとすれば非示差的特徴をも含めてあらゆる意味特徴に関して人間のとりうる可能な連想の型という視点からなされなければならないということである」ということである。

個々の動詞の意味分析をする場合、池上（1975）が指摘する「有契性」の問題を解決しなければならない。本稿では、「基本的意味」を「コア」（“context-free meaning”）として捉え、原義と転義の関係における「原義」を「プロトタイプ」として捉える。

直観的にいって、動詞の意味の展開過程は何らかの規則、あるいは少なくとも制約みたいなものがある筈である。それを、「近接性の原理」とか「類似性の原理」とかをもって説明する試みは常識にかなっている（Ullmann 1962）。また同じように、意味が広がっていくとすればそれだけ、それに全体的な枠（ゲシュタルト）をはめようとする（つまり、一般化する）傾向も常識的に予想できる。その結果として、例えば、*breaking* や *holding* の全体的なイメージみたいなものをもつことになる。そういった語の意味の全体的なイメージを、ここでは「コア（core）」と呼ぶ（田中 1987a, 1987b, 1987c 参照）。コアは、ひとつあるいは複数考えられる原義と転義の関係の背後にあるより抽象的な、いわば動詞の全体的な「顔」のようなものとして印象的に特徴づけることができるであろう。多義を構成する語義の共通項を「基本的意味」だとすれば、それはここでいうコアに相当すると考えることができる。

上のような議論展開をおこなっていくと、原義と転義の関係における「原義」とは何か、という問題がでてくる。ここでは、「転義（extensions）はプロトタイプを基盤にする」という仮説を立てる。もっと正確に言えば、転義はプロトタイプ性の高い語義からのみ派生する傾向があり、このことが転義の派生プロセスの強い制約になると考えられる。プロトタイプ理論については、田中（1987a）で述べたが、要点だけ拾えば次のようになる。

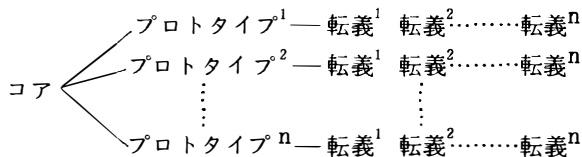
プロトタイプ理論は、私たちが与えられたデータの中に典型的なものを見だし、それを中心に概念形成をおこなうという前提にたつ。そして、典型的なものがその概念のプロトタイプであるとみなす。「くだもの」という概念形成をする場合、最も典型的な「りんご」「みかん」「なし」などを中心におこなう。また、「鳥」という概念形成においても、私たちは試行錯誤を通して複数の「鳥」という集合に属すメンバーを認め、その中にさらに「典型的な鳥」と「典型的でない鳥」を区別する。典型的な鳥のグループには、「すずめ」「つばめ」「からす」などが含まれ、典型的な鳥のグループには「ペンギン」「ガチョウ」などが含まれる。「すずめ」を今度は概念として取り出せば、すずめと呼ばれる具体的な鳥がその成員となり、あるすずめはすずめらしいが、あるものはすずめらしくないといったプロトタイプ性がみられる。

プロトタイプを動詞の意味論にあてはめた場合、2通りの適用法が考えられる。そのひとつは、概念群を階層的にまとめ、ある動詞が複数の動詞を下位項目としてもつとしよう。その場合、その中心となる動詞と下位項目に属す動詞間でのプロトタイプ効果をみることができる（Pulman 1983）。例えば、KILL の下位項目として {*murder*, *assassinate*, *execute*, *massacre*, *sacrifice*, *commit suicide*} , LOOK の下位項目として {*survey*, *glance*, *scan*, *stare*, *peer*, *squint*} があるが、LOOK においては *survey* が、KILL においては *murder* が（ここに与えられたものの中で）最も

プロトタイプ的な項目であるという点を示す調査がある (Pulman 1983)。もうひとつの、適用法は、ある動詞が多義である場合、それぞれの語義間にプロトタイプ効果をみる方法である (Jorgesen 1983, Caramazza and Grober 1976)。ここでは、後者に関心がある。

コアが、コンテキストを捨象した *context-free meaning* であるとすれば、プロトタイプは、典型的な語義を指すという意味で *context-sensitive sense* であるといえよう。ひとつの単語につきコアはひとつであるが、プロトタイプはひとつのこともあるいはそれ以上のこともある。2つ以上のプロトタイプが認められる場合には、コアが本領を発揮するといえる。(プロトタイプがひとつの場合には、コアとプロトタイプは抽象度を除き基本的に重なるということが予想される。) 例えば、*save* の場合、「<命を>救う」と「<お金を>貯める」がともにプロトタイプとしてでてくる可能性が強い。その場合コアは、両者をつなぐ意味である。*save* のコアについては、「X *save* Y において、X が Y を <後でいかすために> 手をつけない <影響を与えない> しておく」(川出 1987) と記述できるのである。

全体的なモデルとしては、コア、プロトタイプ、転義 (*extensions*) の関係は次のようにあらわされる (田中 1987b)。



このモデルでは、大雑把ではあるが「語の意味とは何か」という問題に対して一応ひとつの答をだしている。原義と転義の関係についていえば、ここでいうプロトタイプが原義にあたる。例えば、*take* のコアを「X *take* Y において X が Y を自分の所有枠内に取り入れる」とし、そのプロトタイプを「手でとる／つかむ (P 1)」「受け (取) る (P 2)」「持って／連れていく (P 3)」だとすると、この3つのプロトタイプ (P) から、それぞれ意味の展開がおこり転義が説明される。(プロトタイプは、後で示すように、実験によって実証的に決定されなければならない。) 例えば、「<手で> とる／つかむ」から「占領する」「抜く」などの転義が説明され、「受け (取) る」から「飲む」「理解する」「我慢する」などが展開する。3番目の「持って／連れていく」は、コアとの結びつきがまず示されなければならないが、“John took some rice to Bill.” を “John took some rice” と “to Bill” に分けて考えてみればよい。“John took some rice.” では、「持って／行く」の解釈は普通うまれてこない。ここでは、「ジョンが米を (なんらかの形で) 自分の所有枠内に取り入れた」というコア的解釈を使い、“to Bill” を情報として加えることで「米を持った状態でビルのところに運ぶ」が常識的解釈となる。ここで、“John took some rice.” には、いくつかのプロトタイプの解釈が可能だという点も注意されたい。さて、「持って／連れていく」をプロトタイプとした場合、そこから派生する転義は、“John took it into account.” のようなケースにみられる (West 1953参照)。意味の派生が偶然の要因に左右されることも当然予想されるが、その偶然性はむしろ例外として考えることができよう。

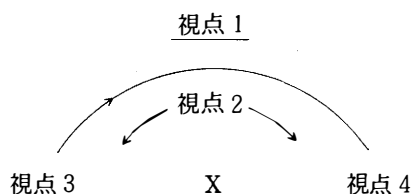
3. コアとプロトタイプの記述：全体性と分析性

コアは、語の意味の全体的（holistic）、ゲシュタルト的なものであり、複数の視点を含み得る。例えば、国広（1981）は、「カケル」の分析をおこなっているが、少なくとも「XとYをひっかける、接触させる」側面と、「XとYに届かせようとする」側面が含まれる。「帽子を柱にかける」は前者の例であり、「花に水をかける」「太郎に電話をかける」など後者の例である。「カケル」のコアは従って、その2つの視点を視野にいれた全体的なものである。

ここでの点につき、英語の位置詞である *over* の用法にみられるコアを考えてみよう。*over* は、下の用例が示すように意味的に複雑な項目である（Bennett 1975, Cooper 1979）。

1. The plane flew over the city.
2. The cat jumped over the fence.
3. The castle is over the hill.
4. The king reigns over the people.
5. He spreads butter all over the bread.
6. It's over.

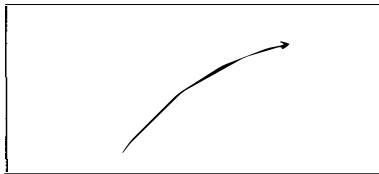
ここで共通の意味をみつけるのは困難であるとされるが（Hawkins 1984, Brugman 1980）、それは *over* の全体像に複数の視点が関係してくるからである。しかし、コアとは、そういった視点をひっくるめた全体の姿であり、下のように表わすことができよう（田中 1987c 参照）。



つまり、視点1を採用すれば、単に「あるものから離れた上部」となり *above* と近くなるが、視点2をとれば、「全体を覆う／包む」感じが出てくる。視点3は、「移動」を解釈に取り入れ「あるものを越える」となる。視点4は、視点3との関係からとらえ「あるものを越えたところに」というダイクシスの解釈になる。視点1は用例の1と関係があり、視点2は用例の4と5に関係がある。視点3は用例2、視点4は用例3と関係する。用例6の「終了」の意味は、あるものを伏せてしまうということから視点2ないし3でもって説明される。*over* のプロトタイプは、これらの視点のいくつかあるいは全てである可能性があるが、そのコアは上で示した全体像（ここでは「曲線を描いた感じ」が特に重要）であり、このことは、コアの記述において、意義素を使った分析的なものだけでなく、絵画などもちいイメージ的にとらえることの必要性を示唆している。

さて、次にコアであれプロトタイプであれ分析的に記述しようとする、意義素の抽出をしなければならない。その場合、心理的に重要（psychologically salient）な典型的特徴を引き出すことが大切である。その際、池上（1975）が指摘したように、その特徴が示差的でない場合も大いに考えられる。国広（1981:35）はこの点につき、次のように述べている。「英語で言えば、*distinctive feature* よりむしろ *relevant feature* とすべきである…… *relevant* は「社会習慣的特徴として問題になる」の意である。……これは池上嘉彦説の「示差的特徴」と異なる重要な点である。つま

り, “relevant” ということは “distinctive” でなくてもよい [ということである]。例えば, *run* の用例には, 「会社を経営する」「鼻水がながれる」「ストッキングに電線がいく」などあるが, これらを視野に入れた意味(コア)分析をおこなうためには「物理的/心理的/時間的空間を(1)一方向性を(ある幅)をもって, (2)連続的に/なめらかに/途切れなく, (3)相対的に早い, (4)一定の速度で動く」(川出1987)を想定する。この場合, その特徴のいくつかは, 印象的であり必ずしも *run* の意味記述において示差的/弁別的ではない。しかし, こういった印象的な特徴があればこそ, *run* の一見異なった用例を全体的イメージ(コア)として集約できるのである。川出(1987)に従い, *run* のコアをイメージ的にあらわせば, 次のようになる。



コアが印象的に全体的なイメージを記述するのに対し, プロトタイプの記述においてはより分析的になる。しかし, プロトタイプの性質上, 十分・必要条件を満たす形で特徴抽出をすることは難しい(Smith and Madin 1981参照)。Jackendoff (1984, 1987) は, 彼の提唱する “Conceptual Semantics” の中で, 次の4つの前提をたてている。

- (1) Meanings are mentally encoded.
- (2) Meanings are decompositional.
- (3) Meanings do not, however, decompose into necessary and sufficient conditions.
- (4) There is no formal distinction of level between semantics and pragmatics.

ここでは, まず, 意味を心理現象とみなし, それを意義素の集合と組み合わせ規則で記述する可能性を示す。しかしながら, 意味は心理現象であるが故に, 必要・十分条件を満たす形でとらえることはできず, 常識を考慮した典型条件を重視しなければならないとする。

Fill more (1977) も, 彼のいう “Scene Semantics” の中で, 私たちのもつ常識知識(プロトタイプ)が予測文法の土台になり, 意味解釈に大きな影響を与えるとのべている。ある行為に対してもっている私たちの典型的知識はデフォルト値(default value)を持つ。通常, giving という行為は, 私たちの予測文法においては, 2人の人間と物が関係し, 物があるから別の人に移動するというスキーマを典型的デフォルト値としてもつ。従って, “John gave Mary ……” ときけば, 次に「物」がくることを予測し, メアリがその受け手であるまでを読む。writing といえば, 「書き手は人間であり, 書かれたものは文字(あるいはその集合体)である」を常識知識として共有する。そこで, “He writes.” は良いが, “The dragonfly writes.” という文を聞けば意外な感じを受ける。こういった意外な感じがする文を複数の被験者にみせ, 敢えて解釈を求めると writing の常識知識を残し, the dragonfly を「ある人を指すあだ名」か何かとして解釈しがちである。こういった常識知識は, デフォルト値として作用し具体的な情報が与えられない限り, その値を補いながら言語理解する, と考えられる(van Dijk and Kinstch (1983)はこの点を詳しく例証している)。

プロトタイプと転義の関係において, 転義はプロトタイプ全体, あるいは部分的特徴を利用して派生する, と考えられるが, 動詞の場合はその過程は比較的単純であり, プロトタイプのイメージ

を抽象的なものに投影するというケースが大半であろう。例えば、*bear* には *bear in mind* 「銘記する」という用例があるが、「ある物体を支えている」というプロトタイプのイメージを投影して、「＜ある問題、点などを＞心の中に（落ちないように）支えている」と解釈することができよう。*break the spirit* などにおいても「精神をぶちこわす」ということで、「花瓶をこわす」などのプロトタイプのイメージを「精神」に投影しているにすぎない。普通、*break the sad news* は「悲しい知らせを伝える」という解釈がおこなわれる。しかし、もっと単純に「悲しい知らせ」を、例えば、容器にたとえ、それを「割る」というプロトタイプを生かした解釈をすることができよう。「伝える」という意味は“*break the sad news to someone*”の“*to someone*”が悲しい知らせが向かう対象を示すところに生まれる。*break the horse* で「馬を飼ひ慣らす」の意味になるが、ここでの前提は「野生の馬は本来荒荒しい」ということであり、そういった「荒荒しさを＜外的力を加えて＞抑える、止める」ということであろう。同様に *windbreaker* においても、勢いのある風を *break* するというプロトタイプのイメージと重なりあう。

4. コアとプロトタイプの分析手順：方法論

4.1 コンテキスト情報の扱い

国広（1981）が、繰り返し強調するように、学問として意味論を位置づけていくためには、意味記述のための発見の手順とでもいったものが明らかにされなければならない。客観的手続きが示されなければ、理論の学問的検討は困難である。そこで、ここでは(1)*replicability*と(2)*testability*を客観性の基準としてみたい。*replicability*とは、模写実験の可能性を指し、ある研究者がある結論に到達した場合、他の研究者が同じ手順に従って実験を再度行えるかどうか、という問題に関係する基準である。*testability*は、ある仮説が提案された場合、それを検証することができるかどうかを問題にする。この点を念頭に入れ、動詞の意味分析の方法を考えてみたい。

まず、コアの発見手順は、用例の収集から始まり、仮説検証の過程を経る。*n* 個の用例 (*exemplars*) が、*corpus linguistics* などの手法を利用し分析対象の資料として準備できたとすると、そこから2通りのコアの発見プロセスが考えられる。

方法A

用例 { 1, 2, 3, …… , *n* } → コアの発見
(プロトタイプの発見)

方法B

用例 { 1, 2, 3, …… , *n* } → プロトタイプの発見 → コアの発見

ここでの2つの方法は、いずれも用例から帰納的に結論を引き出すという意味で“bottom-up”プロセスをとる。方法Aは、用例から直接コアを引き出すやり方であり、方法Bはプロトタイプをまずみつけ、そこからコアを引き出すやり方をとる。方法Aでは、プロトタイプは、手続き上コアとは別個に調査することになる。ここでは、方法Bをより客観的とみなすが、まず、方法Aの検討から始めたい。

意味を分析しようとするとき必ずコンテキストを問題にしなければならない。コアはその性質上 context-free であるが、その発見あるいは検証は context-sensitive データに依る。そこでコンテ

クストとは何かという問題がでてくる。動詞の場合、*break* (X, Y) などといった命題構造がその直接コンテキストとなる。この点との関係で、国広 (1981: 202) は、服部 (1968: 62) によって提案された意味分析のための作業原則を次のように要約している。

- I. 同位置の作業原則：同じ自立語と同じ統合型、文型によって統合される自立語は同じ語義的意義特徴を有する。(パラディグマティック関係)
- II. 呼応の作業原則：互いに統合され得る自立語は、違いに呼応する語義的意義特徴を有す。(シンタグマティック関係)

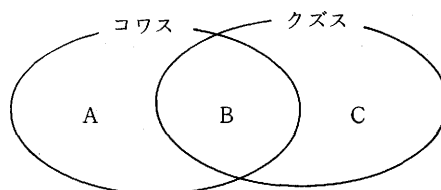
国広 (1981) は、*shed* の分析例を用いながらこの2つの原則を説明している。まず、NP V NP の構造をとる他動詞用法の用例として次のものをあげ、分析の対象としている。

- (1) A tree sheds its leaves.
- (2) A stag sheds its horn.
- (3) A snake sheds its skin.
- (4) A crab sheds its shell.
- (5) A hen sheds its feathers.
- (6) A flower sheds its petals.
- (7) A person sheds his hair.

(以下、国広 (1981: 203-205) に従って説明する。) ひと言でいえば、NP 1 V NP 2 の形において、同位置の作業原則は、NP 1 と NP 2 の特徴分析に私たちの目を向けさせ、呼応の作業原則により、そこから引き出された特徴をVの意味構成要素とすることが動機づけられる。同位置の作業原則から、*shed* の動作主体は<成長物>であるということが判明する。次に、対象物全体にみられる共通の特徴は<主語にくる成長物の本体の一部をなすもの>という特徴がある。さらに、常識をきかし、<成長の一過程としての離脱>、<(捨て去られるものは) 不要なもの>といった特徴が読み取れる。次に、呼応の作業原則に従い、*shed* の主語、目的語にそれぞれ認められた特徴は、動詞の意義特徴の一部を構成すると考えられる。*shed* と *cast* は部分的に重なるが、<自然な成り行きで>は *shed* の弁別的／示差的な特徴である。国広はこれらの点をまとめて、*shed* の意味を次のように記述している。

shed: <成長物が><本体の一部を><自然の成り行き (e.g., 成長の一過程, 新陳代謝) として><不要なものとして><捨て去る>

ここでの分析の特徴は、ある項目の用例から用例全体に共通する特徴を、NP 1 と NP 2 の特徴分析を参考にしながら、つまり、文脈との係わりにおいて引き出すということである。ここでは、単一の項目と用例の関係が示されているが、国広 (1981) は、「ホス」と「カワカス」、「コウス」と「クズス」のように一見意味が近い動詞を、文脈上で比較していく方法も示している。コウスとクズスを比較すると、次のように3つの領域が認定される。



AとBは、それぞれコワスとクズスの独自性が表われている領域であり、Bは両者が共通する領域である。しかし、ここで「共通する」とは、大ざっぱな意味においてであり、「形が違えば意味も違う」という原則（Bolinger 1977）は有効であろう。例えば、「あぜをコワス」と「あぜをクズス」は意味的に似ており、「あぜを」というコンテキストは領域Bに属す。英語でも、“save one’s life”と“spare one’s life”は「命を救う」となり、似ている。しかし、似ているといっても意味が同じという訳ではない。各項目の独自の部分を守備範囲に入れた意味分析をすることで、それぞれの持ち味みたいなものが明らかにされ、そこから「似ているが、違う」という点が説明される。国広（1981）は、「コワス」と「クズス」について次のようにのべている。「字をクズス」とはいうが「字をコワス」とはいわない。「縁談がコワレル」とはいうが、「縁談がクズレル」はあまり普通ではない。コワスはく構造物を対象とし、その機能を損なう＞ということであるのに対し、クズスはく形が保たれなくなる＞がその意味的特徴である。

動詞は、述語として名詞項を関係づける機能をもっており、典型的な形としてNP1 V NP2の他動詞構文を想定し、NP1とNP2を上での作業原則に従い分析していくことは十分うなずけることである。しかし、この方法（方法A）だと実際に分析を進めていく上で問題がでてくる。国広のshedの意味分析においては、“The sun sheds light on us.”の「注ぐ」とか、“Oil skin sheds water.”の「はじく」などは、分析対象の用例に含まれていない。このことは、いくつかの問題を生み出す。まず、分析対象の用例は、何の基準によって選ばれたのであろうか。また、ある用例の集合から引き出された特徴は、語の意味をとらえているのであろうか、あるいは、語の意味のどういった側面をとらえているのであろうか。おそらく、もっと重大な問題は、“The sun sheds light on us.”のような用例を分析対象のデータに加えると、文脈観察のための作業原則が十分に機能しなくなってしまうということである。the sunはく成長物＞ではないし、its lightはく不要なもの＞でもない。また、ここでのshedの意味はく捨て去る＞では都合が良くない。つまり、作業原則に従ったNP1とNP2の特徴分析にとらわれ過ぎると、shed自体の“context-free meaning”が捉えられなくなってしまう。shedのコアは、概略「shed (X, Y)においてXがその全体からYを分かち」といった記述とし、より具体的なところはプロトタイプにまかせるという方法が妥当であろう。国広によって記述された、shedの意味は直観的に十分納得できるものであるが、それはshedのある側面（プロトタイプのひとつ）をとらえているにすぎないようである。

上で、客観的な方法論を探るには、“replicability”と“testability”が重要な基準だと指摘したが、その方向を押し進めていくには、コアが引き出されるまでの過程において、直観に頼る部分ができるだけ少ない方がよい。また、これも上で指摘したことであるが、分析対象として用例が選択された場合、その選択基準も明確に示さなければならない。さらに、認知意味論の立場からは、用例を十分に説明するという記述的妥当性だけでなく、言語使用者の立場からみて「心理的妥当性」の高いものでなければならない。

本稿で提案している意味論は、コアとプロトタイプをだきあわせたものである。要点のみ繰り返せば、単語のもつ意味の広がりや全体的なものをとらえるのがコアであり、その中に含まれる用例の交通整理をするのがプロトタイプである。プロトタイプ理論では、さらに、転義はプロトタイプから派生するという前提をたてており、両者の関係も示さなければならない。単語の意味をコア、プロトタイプ、転義（extensions）で記述するとした場合、それぞれをできるだけ客観的に探る方

法が示されなければならない。上で示した、2つの方法の内、方法Bを採用するというのがここでの立場である。用例は、辞書や他の文献を通しバイアスをできるだけ少なくする方法で集められなければならないが、方法Bでは、雑多な用例の集合から直接、試行錯誤を通してコアを引き出すのではなく、まず、プロトタイプ性（および意味の関連性）という基準に従って用例を整理し、そこからコア分析に進む。用例のプロトタイプ性は、下で述べるように、実験的に決定されるものであり、主観の入り込む余地を少なくすることができるという意味において方法Bの方がAより信頼性が高いといえよう。

4.2 プロトタイプの発見手順：実験意味論

プロトタイプの発見は実験による。基本的には、ひとつの語の意味のプロトタイプを調査するために、いくつかの異なった実験を行い互いに高い相関が得られることを前提とする。ここでは、具体例を用いながらその方法のいくつかをみていきたい。

まず、簡単な方法として、調査したい語を刺激語として与え、その語に意味的に近い語をリストさせるという「類義語リストアップテスト」がある。*hold*, *keep*, *take* の類義語を調査するため、米国在住の米国人大学院生25名を対象に、“please give five verbs that you think are most closely related in meaning to HOLD (KEEP/TAKE).” といった指示を与え、3つの動詞につき各々125の反応を得た。その内、代表的なものを表1に示す。

表1：類義語リストアップテストの結果：HOLD, KEEP, TAKE

HOLD (n = 25)	KEEP (n = 25)	TAKE (n = 25)
keep (16)	hold (19)	grab (11)
grasp (12)	maintain (10)	grasp (7)
have (10)	retain (10)	get (6)
take (7)	have (9)	remove (5)
retain (7)	continue (8)	carry (5)
carry (on) (7)	possess (6)	acquire (5)
maintain (5)	own (5)	steal (5)
contain (5)	preserve (5)	receive (5)
embrace (5)	guard (5)	hold (5)
etc.	etc.	etc.

この結果だけでは、大ざっぱな読みしかできないが、概略、次のことがいえよう。

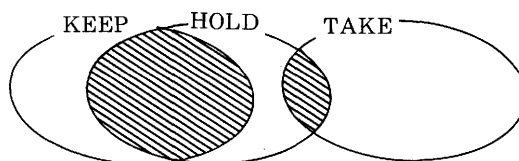
HOLD ー 保持, 維持

KEEP ー 保存, 維持

TAKE ー 獲得

しかし、問題は *hold* に *keep* が、*keep* に *hold* が、そして *take* にも *hold* が含まれており、相互間の違いがはっきりしないということである。あえていえば、*hold* は *keep* と *take* の両方に意味がまたがっているが、表1でみる限り、むしろ *keep* 寄りである。*take* には *keep* が含まれてい

ないということも考え合わせ、この点を図式であらわせれば次のようになるであろう。



しかし、直観的にいって *hold* と *keep* の重なりも部分的なものでしかなく、*hold* は *have* にも関連がある語である。となると、*hold* を取り巻く基本動詞群には { *keep*, *have*, *take* } が含まれることになり、*take* に意味的に近いと考えられる *get* と *catch* をさらに加えひとつの集合を作った場合、6つの動詞間にどういった意味的な関係が生じるであろうか。これは、アプリオリに決めることのできない問題である。例えば、*have* と *hold*, *keep* を較べた場合、どちらが *have* に近いであろうか。{ *get*, *take*, *catch* } は、共通して〈あるものを獲得する〉の要素をもつが、それぞれの意味的距離はどうであろうか。

これらの問題に対し、次の実験をおこなってみた（これは田中1987bにおける予備調査を受けておこなったものである）。まず、実験の前提はこうであった。6つの動詞が提示され「互いの類似性を判定せよ」という課題が与えられれば、私たちはいろいろな基準を用いながら（どれひとつとっても多義性が強い語である）判定を下すであろう。しかし、もし被験者間の反応に共通性がみられたなら、なんらかのファクターが働いている筈である。こういった前提の下に、次のテストを作成し、20名の米国在住の米国大学院生の反応を求めた。

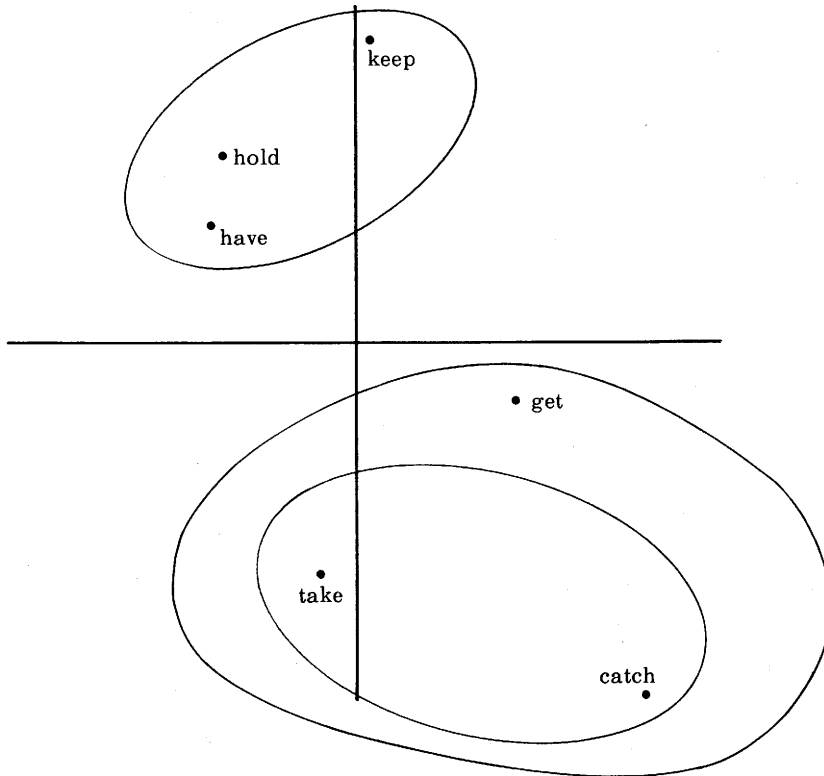
テスト形式

DIRECTIONS: Each test item below consists of a head word put in a box and five words below the head word. For each item, compare the head word with the words below it and rank the five words in the order of relative similarity in meaning. In some cases, you may find it difficult to make a reliable judgement about rank-ordering, but you'll feel that a word A is relatively more similar than a word B if you have to choose between the two. Each number from 1 through 5 should be used once. Place a number in the space to the right of each word.

MOST SIMILAR = 1 LEAST SIMILAR = 5

(1) <div>TAKE</div> HOLD () CATCH () HAVE () KEEP () GET ()	(2) <div>HOLD</div> TAKE () CATCH () HAVE () KEEP () GET ()	(3) <div>CATCH</div> TAKE () HOLD () HAVE () KEEP () GET ()
(4) <div>HAVE</div> TAKE () HOLD () CATCH () KEEP () GET ()	(5) <div>KEEP</div> TAKE () HOLD () HAVE () CATCH () GET ()	(6) <div>GET</div> TAKE () HOLD () HAVE () CATCH () KEEP ()

個人間のバラツキ度をみる標準偏差は、範囲は0.6–1.6であり、平均は0.94でデータとしては満足のいくものである。ここで得られた素データを類似性の行列データに変換し、ノンメトリック多次元尺度法で分析した。下の図では、6つの動詞の意味的関連性が2次元空間の中に心理的イメージの距離としてあらわされている（ストレス値＝.0042）。



ここではY軸が重要な軸であり、大きくは{keep, hold, have}群と{get, take, catch}群の2つに分かれ、keepとcatchがY軸の両極にある。従って、この軸の解釈としては、保存／維持－獲得が候補である。より具体的なところでは、保存あるいは獲得するための具体的な努力、力といった点においてhaveとgetが中立化される傾向にあり、holdとtakeはその間に位置する。

保存：強い KEEP ←——— HOLD ———→ HAVE 弱い

獲得：強い CATCH ←——— TAKE ———→ GET 弱い

被験者の数が20名と少なくデータの読み過ぎは危険であるが（日本在住の10名の米国人を対象にした田中1987bではやや異なった結果がでている）、あえていくつかの読み取りをおこなってみる。まず、getはtakeとhaveの間でちょうど中間点にある。これは、getがtake的要素とhave的要素の両方を兼ね備えているということを示唆している。takeがややcatch寄りの傾向を示しているが、これは「獲得」の語義を両者がもち、そのプロトタイプ的なケースにおいて「手でとる」がどちらの場合もイメージとして浮かんでくる。しかし、この点においてgetは中立である。仮説としていえることは、この実験の課題のような形で多義語間の意味的関連性の判断を求められると、被

験者は各語のプロトタイプ知識を援用する傾向がある、ということである。この点を念頭に入れ、「保存」軸の方をみてみよう。ここで興味ある問題は、なぜ *keep* と *have* の距離の方が *hold* と *keep* の距離より近いとみなされているか、ということである。*hold* も *have* も典型的には、〈あるものを手にもつ〉において共通しているが、*keep* においては〈手〉というより〈ある場所〉に〈保管する〉という典型的な意味がでてくる。このことが、*keep* と *have* の距離を広げる要因として働いているのであろう。しかし、この点を実証的に探ろうとすると、単語レベルの実験では限界がある。

そこで、次に実施した実験は、*hold* と *keep*（ここでは *hold* の分析に関心があり、*hold* とは関連度の低い *take* についてはふれない）の典型的な用例を抽出するために、その語だけを与え、「典型的な用例をあらわす文を作れ」という課題を米国在住の米国大学生および大学院生58名に与えた。その場合、「あなたが外国人に英語を教えていると下さい」といった状況記述を付け、各動詞につき典型的な用例を3個ずつ作るように求めた。その結果、各動詞について174の“典型文”を得た（付録参照）。代表的な文のいくつかを下にリストする。

1. Hold the pencil in your hand.
2. The mother held the child in her arms.
3. She keeps coffee in the refrigerator.
4. I keeps my valuables in a safe deposit box.
5. Hold the nail while I hammer.
6. Please hold my books while I open the door.
7. We'll keep the cat until you come back.
8. The leftovers will keep until tomorrow.
9. Hold on a moment.
10. I'll keep it forever.

まず、NP KEEP/HOLD NP + LOCATIVE (LOC.) において LOC. の部分に違いがある。*hold* においては、{ *in your hand*, *in her arms* } が被験者間で強調されているのに対し、*keep* では { *in a safe place*, *in the refrigerator* } といった具合に、「保存」が強調される。このことは、*hold* の「一時性」と *keep* の「永続性」を裏付けする証拠である。また “X hold Y while -” と “X keep Y until -” の違いにもこの点は顕著にあらわれる。さらに “I keep it forever.” はよいが “I hold it forever.” は不自然である、という点も両者の違いを知るのに参考になる。ホッケーの試合などで、ペナルティが科せられた場合 “two minutes holding” などというが、これは控え室の “penalty box” に一時的に置かれることを意味する。*hold* の用例には “Lady Liderty is holding a torch.” のような進行形をとるものが相当あったが、*keep* においては進行相はそぐわないということはここでの議論で明らかであろう。これらの点を総合してみると、(1) *have* と *hold* は、プロトタイプのレベルでみる限り、*have* と *keep* よりも意味的に近いという点と (2) *hold* においては「一時性」が重要な特徴であるという点は、記述的のみならず心理的妥当性をもっているようである。

しかしながら、上記の実験法は「統制」という点からは問題がある。そこで、語義のプロトタイプ性を調査するより客観的な方法が必要にある。その方法のひとつは、英英辞典などの類義語による定義を利用するやり方であろう。（他の方法については付録2を参照。）ここでは、*hold*, *keep*,

take のプロトタイプ性における相違点を調査した実験を紹介する。

田中 (1987b) における予備調査の結果を受け、下の11段階から成る20の尺度を英語母国語話者に与え、*hold*, *keep*, *take* のプロトタイプ性を測定した。問題は、ここでも上で得られた各動詞に対するプロトタイプ性における傾向がみられるかどうかということであった。

SCALE

HOLD

	← least similar					most similar →					
acquire	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
carry	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
choose	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
conduct	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
contain	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
defend	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
get	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
grasp	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
have	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
maintain	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
observe	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
own/possess	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
preserve	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
receive	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
record	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
remove	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
restrain	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
steal	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
tend	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

keep と *take* のプロトタイプ性の測定においても同じ尺度を用いた。この尺度は、田中 (1987b) でもちいたものを修正、簡略化して作ったものである。結果は下の表 2, 3 に示してある。

表2：類義語による TAKE, HOLD, KEEP の測定結果

SCALES	TEST ITEMS					
	KEEP (n=18)		HOLD (n=13)		TAKE (n=12)	
	M	SD	M	SD	M	SD
1. acquire	3.82	2.43	3.15	2.38	7.08	1.93
2. carry	3.24	2.36	7.85	1.75	7.92	2.05
3. choose	2.55	2.68	2.23	2.64	7.92	1.44
4. conduct	2.82	2.62	5.23	3.4*	2.58	2.36
5. contain	6.94	2.65	8.53	1.28	3.25	2.62
6. defend/guard	7.29	2.76	6.46	2.87	0.92	1.32
7. get	4.65	2.17	4.23	2.29	7.17	1.82
8. grasp/grab	4.24	2.41	8.38	1.64	9.5	0.65
9. have	8.24	1.73	9.31	0.61	4.83	2.37
10. maintain	9.47	0.78	6.38	2.47	1.42	1.75
11. manage	7.59	2.17	3.85	2.32	1.67	2.17
12. observe	7.71	2.11	5.92	2.81	0.83	1.34
13. own/possess	8.94	1.51	8.38	1.82	3.08	2.78
14. preserve	8.71	2.02	5.23	2.94	1.17	1.52
15. receive	4.65	2.11	4.69	2.67	7.83	2.37
16. record	7.00	1.97	1.69	2.05	3.92	2.89
17. remove	0.41	0.60	1.46	2.17	7.67	1.80
18. restrain	5.76	2.62	7.69	2.61	1.58	1.50
19. steal	1.18	1.38	1.38	1.64	9.25	0.72
20. tend	7.82	1.38	5.64	2.41	4.17	2.54

* Responses by 13 native speakers of English: { 2 4 7 0 4 2 8 0 10 10 8
5 8 }

表3：表2にもとづく因子分析

<< 因子負荷量（バリマックス回転後）>>			<因子寄与>	
因 子			因子 1 = 12.685	
共 通 性			因子 2 = 7.251	
1	2			
1. 0.979	-0.207	1.002		
2. 0.164	-0.988	1.003		
3. 0.955	-0.298	1.001		
4. -0.806	-0.533	0.934		
5. -0.999	0.070	1.003		
6. -0.883	0.470	1.000		
7. 0.973	-0.234	1.002		
8. 0.347	-0.940	1.005		
9. -0.992	0.137	1.002		
10. -0.680	0.734	1.001		
11. -0.320	0.950	1.005		
12. -0.811	0.584	0.999		
13. -0.898	0.440	1.000		
14. -0.660	0.752	1.001		
15. 0.929	-0.371	1.001		
16. 0.268	0.948	0.970		
17. 0.876	-0.483	1.000		
18. -1.000	0.053	1.004		
19. 0.925	-0.381	1.001		
20. -0.534	0.845	1.000		

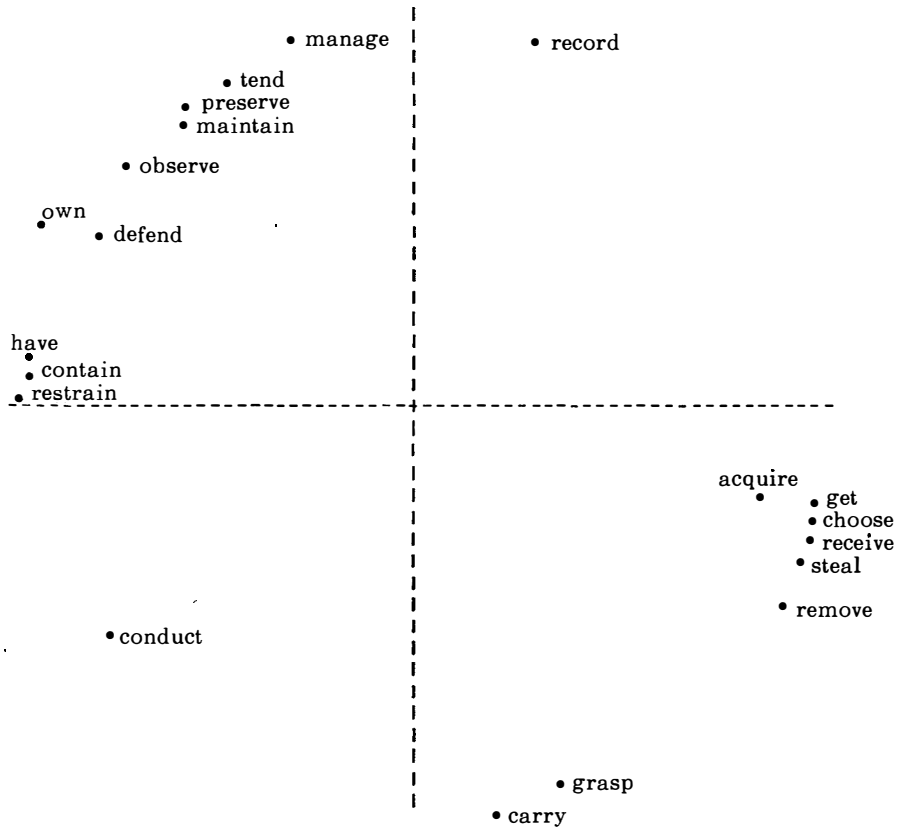


表 2 から, *keep*, *hold*, *take* にそれぞれ意味的に近い類義語 (語義のプロトタイプとみなせるもの) をならべると, 次のようになる。

KEEP	HOLD	TAKE
maintain	have	grasp/grab
own/possess	contain	steal
preserve	own/possess	carry
have	grasp/grab	choose
tend	carry	receive
observe	restrain	remove
manage	defend/guard	get
defend/guard	maintain	acquire
record		

ここでも、*keep*の「維持」、*hold*の「保持」、*take*の「獲得」は基本的に支持されている。因子分析の結果を示す図2をみてみると、*hold*、*keep*、*take*のプロトタイプ性の測定に使った20の尺度は、大きく4つのクラスタに凝縮することができそうである。

保存クラスタ：{ *manage*, *record*, *preserve*, *tend*, *maintain*, *observe*, *own*, *defend* }

所有クラスタ：{ *have*, *contain*, *restrain* (?) }

獲得クラスタ：{ *acquire*, *get*, *choose*, *receive*, *steal*, *remove* }

移動クラスタ：{ *carry*, *grasp* }

図2で明らかなように、「保存」と「所有」は隣接しているということで連続体をなし、「獲得」と「移動」も同じ理由で連続体をなしていると考えられる。この点は、常識的にみても、十分に納得できるであろう。*conduct* だけが一見所有と移動の間で孤立しているが、これは、実は*hold*との強い結びつきを予想したが、表2の注で明らかなように、その関係を強調したグループとそうでないグループに分かれてしまい、結局、*hold*-*conduct*の類似度を下げる結果となったからである。*restrain*の解釈においては、説明を要する。まず、*restrain*を「所有」クラスタに含むことは直観的に正しくない。むしろ、それは「保存」クラスタに納まりやすい項目といえる。「保存」クラスタは*keep*によって代表され、ここでの「所有」クラスタは*hold*によって代表されている。*restrain*がここでいう「所有」クラスタに入った理由は、その項目と*hold*との意味的關係が*keep*におけるものより強調されたからである。*hold*と*restrain*の關係は、“Hold it!”などの用例にみられる。

上記の点を考えにいれると、「所有」クラスタで次元の解釈をするのは正確でない。むしろ、*conduct*までをクラスタに含め、HOLDクラスタをつくり、その中に{*restrain*, *conduct*, *contain*, *have*}など一見異なった要素（プロトタイプ）が含まれているとみなす方が妥当であろう。*restrain*と*contain/have*は語義的には近接していないが、HOLDクラスタの中ではともに際立った項目（つまり、プロトタイプ）として位置づけられる。

となると、上とはやや異なったクラスタのくくり方が考えられる。保存に関しては、そのまま保存クラスタあるいは、KEEPクラスタとする。移動クラスタは獲得よりであることに注目してTAKEクラスタでまとめてしまう。すると、次の分類ができあがる。

KEEPクラスタ：{*manage*, *record*, *preserve*, *tend*, *maintain*, *observe*, *own*, *defend* }

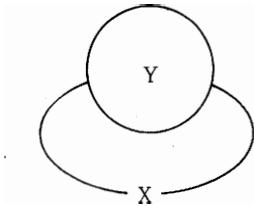
HOLDクラスタ：{*have*, *contain*, *restrain*, *conduct* }

TAKEクラスタ：{*acquire*, *get*, *choose*, *receive*, *steal*, *remove*, *grasp*, *carry* }

ここでは、それぞれのクラスタに各動詞のプロトタイプの語義がリストされていると考えることができよう。そして、個々の語義を包摂する概念がコアである。

ここで提示したデータの信頼性に関しては被験者の数が少ないことから問題があるが、上の議論における「プロトタイプを実験的に決め、次にコア分析に入る」ということの手続き的な意味が理解されるであろう。つまり、直観的なコア分析を、実験的なプロトタイプ分析をおこなった上でやれば、意味分析全体の客観性が高まるであろう、ということである。*hold*を取り上げ具体例を考えてみよう。*hold*のコアは、このデータに基づいていえば、＜あるものを持つ(*have*)＞＜あるものを入物にもつ(*contain*)＞＜あるもの(活動)を抑える(*restrain*)＞＜あることをおこなう(*conduct*)＞を含むものであるということになる。これらの条件を満たす、コア記述として 川出

(1987)は「X *hold* Yにおいて、Xが(1)一時的に、(2)圧力を加え、(3)Y (が動くの)をおさえる」とし、下のようなイメージ画で捉えている。



ここでは、Yが「本」「考え」「事務所」「エレベーター」「ある行動」など値は変わっても、このイメージ画は一定である。このイメージをダブルさせながら *hold* の用例を解釈すると *hold* の持ち味が理解されよう（この線に沿った *keep* と *take* のコア分析については、田中1987b，川出1987参照）。

5. おわりに

本稿では、認知意味論の立場から、語の意味をどのように捉えるかについて、ひとつの提案をおこなった。具体的には、コアとプロトタイプを中心にすえた意味論の提案であるが、問題はいかにしてコアとプロトタイプを発見していくかであった。“replicability”と“testability”を基準とし、それを満たすため、まず、(辞書などの)用例からプロトタイプを実験を通して引き出し、次にコアの分析に入るといふ、方向を示した。つまり、プロトタイプにより用例をある程度整理した後でコア分析をすれば、分析の客観性を高めることができるであろう、というのがここでの前提である。しかし、プロトタイプ確定のための確立された方法論は今のところ持ち合わせていないのが現状である。ここで示された方法は、あくまでもひとつの方向性である。また、たとえコアとプロトタイプを十分な形で記述できたとしても、その他の多くの語義をプロトタイプ(原義)に有契的に結び付けていく作業が残されている。そのためには、用例のプロトタイプ性を連続特性として決定するのみならず、用例相互間の関連性を決定していかなければならない(付録2参照)。用例のプロトタイプ性、用例間の関連性に関するデータが得られたなら、次に用例をプロトタイプと転義の関係で組み合わせていくための理論が必要になる。これらの問題の解明は、今後の研究課題である。

参 考 文 献

- Bennett, D. 1975. *Spatial and temporal uses of English prepositions - an essay in stratificational semantics*. London: Longman.
- Bolinger, D. 1977. *Meaning and form*. London: Longman.
- Brugman, C. 1980. *Story of over*. M.A. Thesis. University of California, Berkeley.
- Caramazza, A. and Grober, E. 1976. Polysemy and the structure of the subjective lexicon. In *Georgetown University round table on language and linguistics 1976*. Washington,

- D.C.: Georgetown University Press.
- Carey, S. Semantic development: the state of the art. In E. Wanner and L. Gleitman (eds.), *Language acquisition: the state of the art*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Cooper, G. 1968. *A semantic analysis of English locative prepositions*. Bolt, Beranek & Newman Report 1587.
- Fillenbaum, S. and Rapoport, A. 1971. *Structures in the subjective lexicon*. New York: Academic Press.
- Fillmore, C. 1977. Topics in lexical semantics. In R. Cole (ed.), *Current issues in linguistic theory*. Bloomington: Indiana University Press.
- 服部四郎 1968. 『英語基礎語彙の研究』三省堂.
- 服部四郎 1973. 「意義素の構造」『英語展望』No.42, ELEC.
- Hawkins, W. 1984. *The semantics of English spatial prepositions*. Doctoral dissertation. University of California, San Diego.
- 池上嘉彦 1975. 『意味論：意味構造の分析と記述』大修館書店.
- Jackendoff, R. 1984. *Semantics and cognition*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Jackendoff, R. 1987. On beyond Zebra: The relation of linguistic and visual information. *Cognition*, 26: 89–114.
- Jorgensen, J. 1983. *Polysemy and psycholexicology*. Doctoral dissertation. Princeton University.
- 川出才紀 1987. 「基本動詞のコア分析：SAVE, RUN, HOLD, KEEP」田中茂範編『基本動詞の意味論：コアとプロトタイプ』三友社出版.
- 国広哲弥 1981. 『意味論の方法』大修館書店.
- Lyons, J. 1977. *Semantics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Miller, G. 1978. Semantic relations among words. In M. Halle, J. Bresnan, and G. Miller (eds.), *Linguistic theory and psychological reality*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Miller, G. and Johnson-Laird, P. 1976. *Language and perception*. Cambridge, Mass.: Harvard University Press.
- Papegaaïj, B., Sadler, V., and Witkam, A. 1986. *Word expert semantics: an interlingual knowledge-based approach*. Dordrecht: Foris Publications.
- Prideaux, G. 1984. *Psycholinguistics: the experimental study of language*. London: Croom Helm.
- Pulman, S. 1983. *Word meaning and belief*. Norwood, NJ: Ablex.
- Rosch, E. On the internal structure of perceptual and semantic categories. In T. Moore (ed.), *Cognitive development and the acquisition of language*. New York: Academic Press.
- Smith, E. and Madin, 1981. *Categories and concepts*. Cambridge, Mass.: Harvard University Press.
- 田中茂範 1987a. 「多義語の分析：コアとプロトタイプ」『茨城大学教養部紀要19』pp. 123–158.
- 田中茂範 1987b. 基本動詞の認知意味論と TAKE, HOLD & KEEP の意味

- 「特定研究言語情報処理の高度化のための基礎的研究」昭和62年度第一回研究会 要旨集, pp. 1-18.
- 田中茂範 1987c. 編著. 『基本動詞の意味論：コアとプロトタイプ』三友社出版.
- Ullmann, S. 1962. *Semantics: An introduction to the science of meaning*. London: Basil Blackwell.
- Van Dijk, T. and Kintsch, W. 1983. *Strategies of discourse comprehension*. New York: Academic Press.
- West, M. 1953. *A general service list of English words with semantic frequencies and a supplementary word-list for the writing of popular science and technology*. London: Longman.

付録1：母国語話者（n=58）によるKEEP, HOLD, TAKEの典型文

KEEP

1. I'll keep Jose's money.
2. You keep the money.
3. He keeps the money.
4. You don't need to give it back to me; it's yours to keep it.
5. Since you will need the recipe later, you'd better keep it some place safe.
6. Keep staples next to paper clips.
7. I keep my valuables in a safe deposit box.
8. Keep your money in a safe place.
9. She keeps coffee in the refrigerator.
10. Will you keep my dog for me this weekend ?
11. Keep your spirits up.
12. Did you keep your notes ?
13. He kept his promise.
14. Keep quiet.
15. Keep quiet.
16. Please keep quiet when I'm studying.
17. You should keep working and not stop after one mistake.
18. They kept working.
19. She kept talking.
20. He keeps saying the same thing.
21. Mary and John keep complaining about the noise from the street.
22. We'll keep the cat until you come home.
23. I usually keep bread in the refrigerator.
24. Students must keep their backpacks on the floor.
25. Keep quiet.
26. I keep my money in my purse.
27. Please keep this for me until tomorrow.
28. Keep this milk in the refrigerator.
29. I'll keep this gift forever.
30. Keep trying ! Don't give up !
31. I'll keep it for you until tomorrow.
32. I want to keep it forever.
33. The leftovers will keep until tomorrow.
34. Keep your money for later.

35. He kept it in this drawer.
36. He keeps butting in.
37. I don't want this book back. You can keep it.
38. If you want to improve your English, keep studying.
39. He keeps coming late.
40. You may keep that book.
41. I'm going to keep your picture forever.
42. You can keep this. It's for you.
43. You can keep the present you received.
44. Luis, you may keep this story book. You don't have to give it back.
45. Mary, take this doll home and keep it.
46. John, keep your exam paper and show it to your mother.
47. Keep your money in a safe place.
48. You must keep the books on the shelf.
49. You must keep the books in the closet.
50. He must keep his appointment with the doctor.
51. Please keep quiet.
52. Keep in line as we cross the street.
53. If you keep that up, you'll never succeed.
54. Please keep off the grass.
55. Keep on talking, and you'll be in trouble.
56. If you keep looking, you will find it.
57. Keep trying -- I'm sure you'll do better.
58. I'll keep these for you.
59. I've kept this for many years.
60. You keep it. I already have one.
61. Keep the gift you received; don't give it away.
62. You don't need to return your book; you may keep it.
63. Where do you keep the sugar ?
64. Keep your hands on the desk.
65. Will you keep my parrot while I'm on vacation ?
66. Can you keep a secret ?
67. Keep quiet !
68. Keep quiet during the movie.
69. Class, please keep quiet.
70. Keep off the grass.
71. Keep in touch.
72. Keep up the good work.

73. Don't keep coming here.
74. Keep jogging for a mile.
75. The snow keeps falling.
76. May I keep the books ?
77. I will keep the new books.
78. I will keep the dress after all.
79. This is a present for you to keep.
80. Keep this picture for me.
81. Keep this for me.
82. She took my watch and kept it.
83. Please keep these papers.
84. Keep this note as a remembrance.
85. The gov't keeps part of your check for taxes.
86. She keeps the keys so that nobody will get into her office.
87. When you find money, do you keep it or do you give it to the police ?
88. I keep candy in my desk.
89. Keep your keys in your pocket.
90. Keep your notebook in your desk !
91. People keep their money in the bank.
92. She kept her money in a savings account.
93. Her father wouldn't let her keep the dog.
94. She was kept by the rich man.
95. He was kept in the 6th grade for another year.
96. Can you keep a secret ?
97. Don't tell her; she can't keep a secret.
98. Keep quiet !
99. Keep quiet !
100. Keep silent !
101. Keep your room clean.
102. Keep your feet off the table.
103. Keep trying.
104. Keep up the good work !
105. Keep on going.
106. The meat won't keep more than three days.
107. He can't keep a secret.
108. The gloves will keep your hands warm.
109. Will you keep my child today ?
110. Keep the lights on.

111. Keep healthy / quiet.
112. I keep on breaking things.
113. School keeps me busy.
114. I keep my money under my mattress.
115. Where do you keep your glasses ?
116. Can you keep a secret ?
117. The young girl keeps a diary.
118. If the line is busy, just keep trying (to reach me).
119. Keep all personal belongings in a safe place.
120. Keep off the grass !
121. Keep going until you get the library.
122. Do you keep a diary ?
123. If I give you my watch, will you keep it ?
124. He kept working during lunch time.
125. My watch keeps stopping.
126. I don't need this book, you can keep it.
127. Perishable foods should be kept in the refrigerator.
128. The teacher keeps order in the classroom.
129. I'll keep this souvenir forever.
130. You can keep the car as long as you need it.
131. You must keep coming to class everyday.
132. Keep this money in a safe place.
133. Keep out.
134. Keep your nose out of other people's business.
135. Keep the change.
136. Keep in touch. (write or phone me)
137. Keep to the right when driving.
138. Can you keep a secret ?
139. Keep in mind that you have a test tomorrow.
140. Can I keep this until next year ?
141. I'll keep it for the rest of my life.
142. Keep your nose out of my business.
143. He kept a memento of his adventure.
144. He keeps talking even if no one listens.
145. He will keep my place until I return.
146. She keeps talking about her trip to New York.
147. Politicians rarely keep their promises.
148. If you keep smoking, your health will get worse.

149. Keep this book for as long as you like.
150. Keep going and it's the first building on the left.
151. Keep your papers in your notebook.
152. I'll keep your book in this drawer.
153. Keep the key in a safe place.
154. Keep smiling and stay happy !
155. Keep your fingers out of your mouth.
156. You don't have to give it back, you can keep it.
157. Keep calm.
158. Do you keep records ?
159. We keep regular hours / keep to the schedule.
160. Keep this. Don't throw it away.
161. Keep this for me until I get back.
162. Keep that animal away from me.
163. The boy kept guessing for hours.
164. Keep your word !
165. Keep the child away from the stove.
166. Keep talking. I want to hear more.
167. Keep it. It's yours.
168. Keep your eyes closed until I tell you to open them.
169. You can keep this as a memento of our friendship.
170. The baby keeps crying.
171. How long will this meat keep in the refrigerator ?
172. Why do you keep phoning me at work ?
173. It's better to keep the apartment you have.
174. This is a really good guitar. So don't sell it. Keep it.

HOLD

1. Hold your pencils in your hand.
2. Hold the pencil in your hand.
3. When you write, do you hold the pencil in your right or left hand ?
4. Hold my jacket for me.
5. Please hold my books.
6. Lady liberty is holding a torch.
7. Hold it until I arrive.
8. Hold this for me.
9. Hold this dress till next week when I'll have some money.

10. Because the bus was late, they had to hold the bell.
11. The bank will hold the check for 3 days.
12. Hold the nail while I hammer.
13. Hold onto the rope.
14. Hold the rope so that you do not fall.
15. Hold your mother in hand when you cross the street.
16. Hold my hand.
17. Hold my hand while we cross the street.
18. Hold someone's hand on line.
19. Hold my hand when we walk.
20. I want to hold your hand.
21. The mother held the child in her arms.
22. The mother holds her baby close to her.
23. Please hold the baby carefully.
24. Please hold the baby while I eat.
25. She held the baby while she ate.
26. He held me in his arms.
27. We must hold fast to our beliefs.
28. That jug holds a lot of water.
29. This jug holds one pint.
30. Hold on now.
31. Please hold my books while I open the door.
32. Let me hold your coat for you.
33. Hold onto the railing when you climb the stairs.
34. Janet holds her keys in her hands to avoid losing them in her purse.
35. The measuring cup holds eight ounces of liquid.
36. Hold my bag while I tie my shoe.
37. We'll hold a meeting tonight.
38. Hold my place in line.
39. Hold on. (Wait)
40. I'm holding the book up.
41. I'm holding the doorknob.
42. They are holding my passport.
43. No one knows what the future holds.
44. The thief held the jewels for ransom.
45. The car holds four people.
46. Hold my hand.
47. Hold my books for a minute, please.

48. Hold the door open.
49. This truck will hold five tons of gravel.
50. I hold a pencil in my hand.
51. Tomorrow we will hold a meeting.
52. Do you know how to hold chopsticks ?
53. Hold on, I'll see if he's in. (Tel.)
54. The Christmas party will be held next week.
55. Hold your books in your arms.
56. Please hold my book.
57. Hold your candy in your hand.
58. Could you please hold my books while I put on my coat ?
59. Will you hold this package for a moment please. I'll be right back.
60. Hold onto your ticket.
61. Everyone must hold hands.
62. He is holding the baby.
63. Did you hold the baby ?
64. The mother will hold the baby in her arms.
65. Hold me. I'm so lonely.
66. He's being held by the police until his parents can be contacted.
67. Please hold on for one minute.
68. I'll put your call on hold while I see if she's in the office.
69. She put me on hold.
70. I will hold you to your promise to do your homework.
71. He held out for the best offer.
72. Will this fine weather hold ?
73. Please hold this book for me.
74. The child was holding her mother's hand.
75. This glass won't hold much water.
76. Here in my hand, I hold a dollar.
77. This glass holds water.
78. Hold my book, please.
79. Hold onto your seats. We're in for a good time.
80. Hold your head up high.
81. Let me hold the baby.
82. I'll hold it for you.
83. I had a hold of the rope before it broke.
84. I can't wait to hold the baby.
85. Hold that bus !

86. They hold a meeting every week.
87. He holds the cup of coffee in his hand.
88. My car holds four people.
89. He held my bag until I returned.
90. The meeting will be held tomorrow at 3:00.
91. Hold it in your left hand.
92. Hold on. I'll be back soon.
93. The Olympic games will be held in Korea.
94. Please hold my coat for me.
95. Please hold this book for me.
96. Hold the stapler while I hang the poster.
97. Mario is holding his lunch and Melissa is holding her coat now.
98. Hold these books for me for just a minute.
99. Hold your ticket for admission.
100. Hold the pencil in your right hand.
101. Hold your chalk in your hand.
102. Hold the pencil correctly.
103. Please hold the door open.
104. I want to hold your hand.
105. Hold your head high.
106. Hold your hands over your head.
107. We must hold hands when crossing the street.
108. Hold your friend's hand.
109. Please hold. I'll transfer your call.
110. Hold it ! Wait a minute !
111. Take hold of that end of the street.
112. Hold all my calls.
113. I can't hold another bite.
114. Please hold the door.
115. Please hold the door for me.
116. Would you hold my package ?
117. This box holds 6 bottles.
118. Hold it ! Hold on !
119. Hold this for me, will you ?
120. Hold onto my shoulder or you'll fall.
121. The baby held the mother's hand.
122. The police are holding the suspect for questioning.
123. The nail won't hold the picture.

124. Hold onto the railing when you go down the stairs.
125. What is she holding in her arms ?
126. She held the baby in her arms.
127. Let me hold your hand.
128. Hold on. I'll be right back.
129. How much sake will this pitcher hold ?
130. How do you hold this camera ?
131. Hold on, I'll be back in a minute.
132. The meeting will be held next.
133. She held a large book in each hand.
134. She held the baby carefully in her arms.
135. The children held each other's hand as they crossed street.
136. I hold the pencil.
137. You hold the pencil.
138. He held the book.
139. Barry can hold the pencil.
140. Hold the football this way.
141. Hold this money in your hand.
142. You should hold it with both hands.
143. One usually holds a cup by the handle.
144. These books are too heavy to hold.
145. Hold the package while I look for a token in my bag.
146. Hold this package while I put on my coat.
147. Hold onto your hats, ladies; it's very windy !
148. You must hold onto the railing as you climb the stairs.
149. Hold on tightly when you ride a horse.
150. Hold my hand crossing the street.
151. I want to hold your hand.
152. I held the baby.
153. May I hold your baby for a moment ?
154. Hold the phone; I'll call her.
155. He held up the bank.
156. She held her breath.
157. Hold this picture for a few minutes.
158. He is holding my favorite book.
159. You must hold the ticket until the show ends.
160. Hold my hand.
161. They put me on hold (Tel.)

162. Hold the pickle.
163. Will you hold this for me ?
164. Hold (onto) the rail when you climb the stairs.
165. Let's hold hands.
166. I'll hold it for you.
167. The bridge will hold at least 2,000 pounds.
168. Hold the flag higher.
169. He held onto this very faint hope.
170. He held onto the rail for dear life.
171. He held the ball in his hand.
172. Hold the fork in your left hand.
173. Hold this piece of paper.
174. Could you hold my case for a moment ?

TAKE

1. Take the pen.
2. Mary takes the pen.
3. I take the pen from Jose.
4. Take out a pencil and paper.
5. Would you take the basket to Grandma's ?
6. Please take this letter to Mr. Wilson.
7. Remember to take the library books back.
8. If you're not going to use my book now, I'd like to take it back.
9. Please take the garbage out.
10. Don't take what does not belong to you.
11. It's not proper to take something which doesn't belong to you.
12. I took some aspirin.
13. You must take 3 aspirins now and one after every 3 hours.
14. She took a test.
15. We are going to take a test.
16. Tomorrow I will take a math test.
17. I'm going to take a day off from work.
18. Take your time.
19. Take five minutes to rest.
20. Take a number.
21. Let's take a walk.
22. Now you can take this from here to the next office.

23. Please take your tray to the last table.
24. Don't take your wet coat into the house.
25. Take a bath.
26. Take me to the store.
27. Can I take a cookie ?
28. When I hand you the box, take it.
29. When will you take your vacation ?
30. I'll take the red one.
31. Take what you can get.
32. I'll take it to the court.
33. I'll take the test later.
34. He took an extra helping of sugar.
35. He took the flower when no one was looking.
36. He took an hour and a half for lunch.
37. Take this from here to the office.
38. Take your book home tonight.
39. Take as many as you like (biscuits, etc.)
40. Please take this letter to the post office.
41. We will take these books to the library before their due date.
42. Jose, take this pencil to Jaime.
43. Maria, take your notebook home with you tonight.
44. Take the books from the desk.
45. Take the pencil from Maria.
46. Take the broom from the cupboard.
47. Please take one. They are free.
48. Take your coat off.
49. Please take the baby for a walk.
50. Take me out to the ball game.
51. Enrique, take Manuel with you to the boy's room.
52. I want to take your picture.
53. Let's take the train to New York.
54. Take the express bus to Manhattan.
55. Take all the time you need to think about it.
56. Take my brother for example -- he's a man but he's a good cook.
57. Take-out food is easy to serve.
58. I'm going to take an incomplete.
59. She cannot take the pressure.
60. They're going to take a vacation.

61. Take my hand.
62. Did you take my book ?
63. Take a meal.
64. Take fifteen minutes to finish writing.
65. Take that form to the Bursar.
66. It takes super-unleaded gas.
67. He took the woman's hand.
68. Take a deep breath and count to ten.
69. The nurse took the man's temperature.
70. They took a walk on the beach.
71. I hate taking tests.
72. Take your I.D. with you.
73. Take it easy.
74. Can I take you somewhere ?
75. I can't take it any more.
76. Take the passport to the immigration office.
77. I'm tired. Let's take a break.
78. It took me three hours to get there.
79. I took three books off the library shelf.
80. The thief took 50 dollars from the cash register.
81. How many suitcases will you take with you ?
82. Take one piece of paper.
83. Take your books with you.
84. Can you help me take these books back to the library ?
85. Please take these books back to the library for me.
86. He took ten dollars for the movie.
87. Take your math book out of your desk.
88. You may take two books at the library.
89. Did Maria take your pencils ?
90. He took his girlfriend to the party.
91. He takes the train to work.
92. Please take some of these cookies.
93. Today you are going to take a test.
94. It takes a strong man to lift that.
95. I'm taking a day off; I can't take this nonsense any longer !
96. I'm going to take a rest this afternoon.
97. I'm going to take a walk after dinner.
98. Take the first turn on your left.

99. I'm taking care of my younger sister.
100. Take this letter to the post office.
101. I asked him to take the notebook from his neighbor.
102. The meeting won't take long.
103. Please take me to the store.
104. I take a bath each day.
105. Do you take cream in your coffee ?
106. Take your shoes off, please.
107. Will you take me to a movie ?
108. Take a right turn at the next corner.
109. I'll take it to him.
110. I won't take that abuse from anyone.
111. Take what you can get.
112. He took the painting without her knowing about it.
113. They took a walk around the lake.
114. He really took his time getting here.
115. He took a book from the shelf.
116. He took a look inside.
117. It takes 30 minutes to reach there.
118. If your T.V. needs repair, take it to the nearest electric shop.
119. How long does it take for you to get here ?
120. It may rain. Don't forget to take an umbrella.
121. Take what's necessary for survival.
122. Don't take the blue marker, take the green one.
123. Take the paper and sit down.
124. We will take the presents with us.
125. I cannot take this with me.
126. Take your money with you.
127. Take these papers to the principal's office.
128. Take it to the cleaners.
129. Please take this to the office.
130. Take all your books to school.
131. Take this note home.
132. Take a fork from the drawer.
133. I took an apple out of the refrigerator.
134. Don't kill me: take my money and leave.
135. He took the jewels from the safe.
136. The girl had to take the baby to the park.

137. He took me to the movies.
138. Please take her out of here.
139. Take the dog to Grandma's house.
140. Only take one piece of cake.
141. Do not take drugs.
142. He had to take aspirin for his headache.
143. He took the bus to work.
144. This book takes a lot of effort to read.
145. I will take a bite of chocolate cake.
146. We will take a trip this summer.
147. I will take a number and get on line.
148. He took the remark the wrong way.
149. Take it like a man.
150. Take it easy.
151. I have to take my clothes to the cleaners.
152. Don't forget to take your umbrella.
153. Take the glass and fill it with water.
154. Take your sister to the beach.
155. I took my vacation early this year.
156. Take this quarter and go make a phone call.
157. Did you take votes ?
158. Are you taking a class ?
159. Take medicine/orders.
160. Take three spoons from the container on the counter.
161. Take two aspirins and go to bed.
162. Take that form to the Bursar.
163. Take two aspirins and call me in the morning.
164. The government took control of the city.
165. Take this book back to the library.
166. Take a piece of candy each.
167. Take a vacation. You need it.
168. Take your umbrella. It's raining.
169. Take two aspirin and call me in the morning.
170. Will you take this letter to the post office ?
171. Will you take a picture of me and my friend ?
172. Feel free to take whichever tape you want.
173. Take two pills, 3 times a day.
174. I'll take you to the new restaurant tomorrow.

付録2：典型性と関連性のテスト

語を与えて英文作成を求める方法は、「典型的でない文」「基本的な文」「頻繁に使われる文」など条件を異にすることによって、有益な情報が得られるが、2つの問題がある。そのひとつは、内容分析が難しいということであり、もうひとつは、データにバイアスが生ずる危険性が高いということである。ある語を代表する典型的用例が何であるかを決めるには、より客観的なデータに照らしあわせて見なければならない。その際の方法は、辞書などを利用して調査したい語の用例をバランスよく取り出し、その全ての組み合わせに対して典型度の測定を行う。例えば、*hold* の用例を次のように取り出す。

1. This cup is too hot for me to hold.
2. She held her arm still while the doctor looked at it.
3. She held her hair back with a pin.
4. The police held the angry crowd back.
5. How much water does the pan hold?
6. He holds a half share in the business.
7. We held a meeting on Tuesday.
8. We held ourselves in readiness for bad news.
9. I hold (the view) that he's a fool.
10. What he said still holds.

[From *Longman Dictionary of American English: A Dictionary for Learners of English.*]

ここから、次のような全ての可能な組み合わせを45組つくり、各々の組に対して典型性の判断を求める。

テスト形式

1. A. This cup is too hot for me to hold.
B. She held her arm still while the doctor looked at it.

 1. Aの方がBより典型的
 2. Bの方がAより典型的
 3. 典型性において差はない

2. A. We held a meeting on Tuesday.
B. He holds a half share in the business.

 1. Aの方がBより典型的
 2. Bの方がAより典型的
 3. 典型性において差はない

もちろん、各々の文に対して典型性を n 段階の尺度で測定するという方法もある (Caramazza and Grober 1976 参照)。こういった方法を他の方法と平行しておこなっていくことにより、語義のプロトタイプ性を実験的に示すことができよう。

プロトタイプと転義との関係を見るには、それぞれの語義にプロトタイプ・スコアを与えていくだけでは不十分であり、語義間の関連度を調査しなければならない。その方法としては、上の *hold* の例でいくと、10の語義を下のようにマトリックスの形に組み合わせる。全ての可能な組み合わせについて、関連度を10段階の尺度で判断する。Prideaux (1984) を参考にしながら、問題をつくと以下ようになる。

HOLD の語義の関連度テスト

1. Read the list of sentences using HOLD.
 1. HOLD¹ : The cup is too hot for me to hold.
 2. HOLD² : She held her arm still while the doctor looked at it.
 3. HOLD³ : The police held the angry crowd back.
 4. HOLD⁴ : How much water does the pan hold ?
 5. HOLD⁵ : She held her air back with a pin.
 6. HOLD⁶ : He holds a half share in the business.
 7. HOLD⁷ : We held a meeting on Tuesday.
 8. HOLD⁸ : We held ourselves in readiness for bad news.
 9. HOLD⁹ : I hold (the view) that he's a fool.
 10. HOLD¹⁰ : What he said still holds.
2. Read the list again and pick that pair of HOLDS which you consider to be the most similar in meaning. Place a "1" in that cell corresponding to the pair you have just picked.
3. Read the list again and pick that pair of HOLDS that you consider to be the least similar in meaning. Place a "9" in the cell corresponding to the pair you have just picked.
4. You have now secured your "anchor points" for the use of the scale from "1" to "9". For each of the remaining cells, compare each pair of HOLDS with respect to the similarity in meaning of the use of hold. In each cell place a number from "1" to "9" inclusive, where the lowest numbers correspond to relative similarity in meaning and the higher numbers to relative distance or dissimilarity.

MOST SIMILAR = 1

LEAST SIMILAR = 9

	HOLD ¹	HOLD ²	HOLD ³	HOLD ⁴	HOLD ⁵	HOLD ⁶	HOLD ⁷	HOLD ⁸	HOLD ⁹	HOLD ¹⁰
HOLD ¹		—	—	—	—	—	—	—	—	—
HOLD ²			—	—	—	—	—	—	—	—
HOLD ³				—	—	—	—	—	—	—
HOLD ⁴					—	—	—	—	—	—
HOLD ⁵						—	—	—	—	—
HOLD ⁶							—	—	—	—
HOLD ⁷								—	—	—
HOLD ⁸									—	—
HOLD ⁹										—
HOLD ¹⁰										